

領域 教育課程の編成と実施

木村(飯田) 範子

(日本の教育制度と教育実践 第2部)

(1) 概要

- 1 教育課程の全体構造
- 2 カリキュラム開発の過程

(2) 教育課程の編成

- 3 教育目標と教育課程
- 4 教育課程と学習指導要領

(3) 教育課程の実施

- 5 単元構成と教材研究
- 6 指導計画と学習指導案
- 7 評価(児童・生徒対象)
- 8 授業評価・カリキュラム評価
- 9 学習指導の形態

(4) 学習活動の実例

- 10 小学校における各教科
- 11 道徳
- 12 特別活動 1(学級活動・ホームルーム活動)
- 13 特別活動 2(児童会活動・生徒会活動)
- 14 特別活動 3(クラブ活動)
- 15 総合的な学習の時間(: 環境・福祉・国際理解等の体験活動)
- 16 部活動

筑波大学教育開発国際協力研究センター (CRICED)

URL. <http://www.criced.tsukuba.ac.jp/keiei/>

教育課程の全体構造

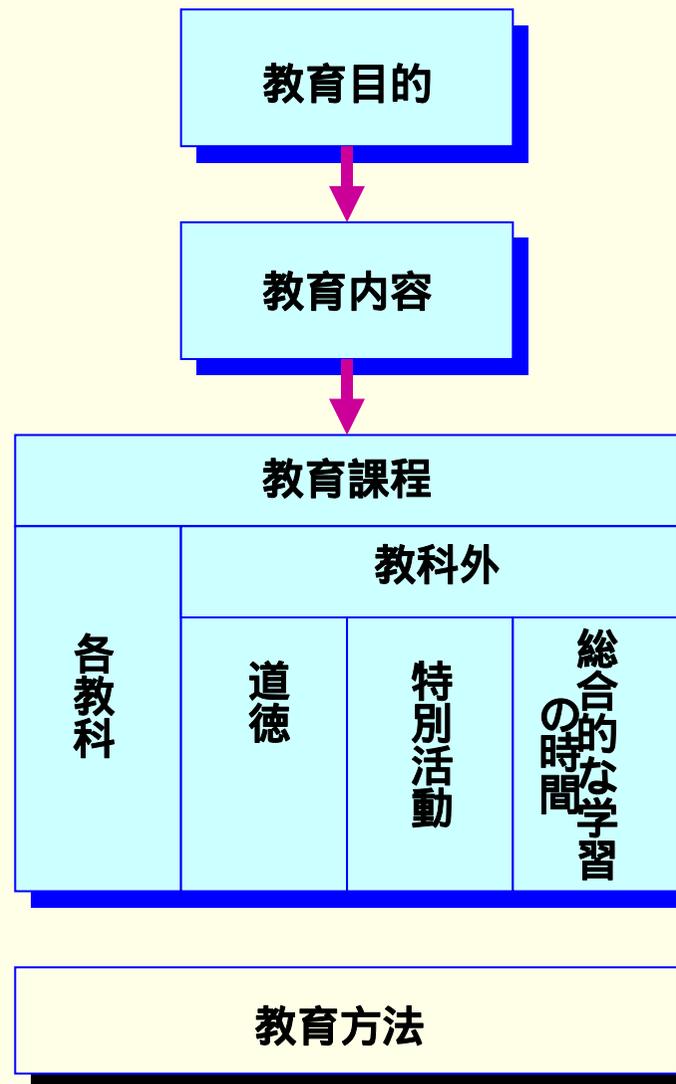
教育課程

= 学校における教育内容の計画のすべて

教育課程の具体的事項

1. 具体的な教育内容
2. 教科学習か教科外活動か
3. 必修か選択か
4. 教材は何か
5. 授業時数
6. 指導形態

教育課程の全体構造



教育課程の全体構造

国が定める教育課程の基準
(学習指導要領)

都道府県教育委員会や市町村教育委員会
が定める教育課程の地方基準

学校の教育課程(年間指導計画)

学年や領域・教科の指導計画

学期の指導計画

月の指導計画

週の指導計画、単元の指導計画

1日の指導計画

本時の指導計画(指導案)

教育課程の全体構造

平成17年度

美術科年間指導計画

美術科学習指導計画（1年）

月数	○領域分野 「題材名」 ・題材のねらい	観点別学習目標 A 表現			B 鑑賞	
		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技術	関心・意欲・態度	鑑賞の能力
4 1	○鑑賞 「オリエンテーション」 「字を遊ぶ」 ・学習意欲を喚起する ・目標意識を育てる ・伝統的な工芸を鑑賞し、豊かな発想と工夫、美と機能性の調和などに気付かせる。					
4 1	○鑑賞 「言葉グラフィーション」 「言葉で遊ぶ」 ・言葉遊びによる身の回りのものを鉛筆で明確や質感を表現しながらスケッチする。					
4 2	○鑑賞・デザイン 「色の世界」 ・色彩の基礎的な語句や性質、感情を理解し、その意味を生かす方法を理解できるようにする。 ・効果的な配色の技術を身に付ける。					
6 8	○鑑賞・デザイン 「自然ウォッチング」 「風を感じて」 ・自然素材に感動することを導入し、木の恵みなどの自然が育んだ形とデザイン的構成要素を生かして表現する。					

月数	○領域分野 「題材名」 ・題材のねらい	観点別学習目標 A 表現			B 鑑賞	
		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技術	関心・意欲・態度	鑑賞の能力
9 2	○デザイン 「レタリング」 「ふだん何気なく使っている文字を学習することにより、文字の楽しさ、美しさを発見する喜びを知ろう。」					
9 10	○鑑賞・工業 「木の造形」 「レース、コースター、ブックエンド、レターブックなど」 ・木の素材の良さを味わい、それを生かした表現を構想することが出来る。 ・木材加工の技術を身に付ける。					
11 2	○鑑賞 「生活と造形」 「生活の中のデザイン」 ・伝統的な工芸を鑑賞し、意匠の発想と工夫、美と機能性の調和、作品に込められた思いと造形的な良さを身に付け、生活におけるデザインや工芸の働きについて理解できるようにする。 ・伝統と現代性について考えることが出来るようにする。					

月数	○領域分野 「題材名」 ・題材のねらい	観点別学習目標 A 表現			B 鑑賞	
		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技術	関心・意欲・態度	鑑賞の能力
11 10	○鑑賞 「図多色木版画」 「友達発見」 「クマ」について ・友達の個性や個性に注目し、それらを版画で表現する楽しさを味わう。 ・人物の表情の間の関係や、立体としてのもの見方や形態の表しなどの基礎的な技術を身に付ける。					
1 7	○鑑賞・デザイン 「様々な技法」 「色々な技法」 ・色々な技法を効果的に使い、個性を生かした不思議な形や色から着想し、平面又は立体作品を作る。					
3 2	○鑑賞 「まとめ」 ・多様な表現の良さを美しさを味わうことが出来るようにする。 ・想像力を働かせ、現代美術の意匠や意匠と表現の工夫を理解出来るようにする。 ・美術館での鑑賞の大切な方法を理解する。					

カリキュラム開発の過程

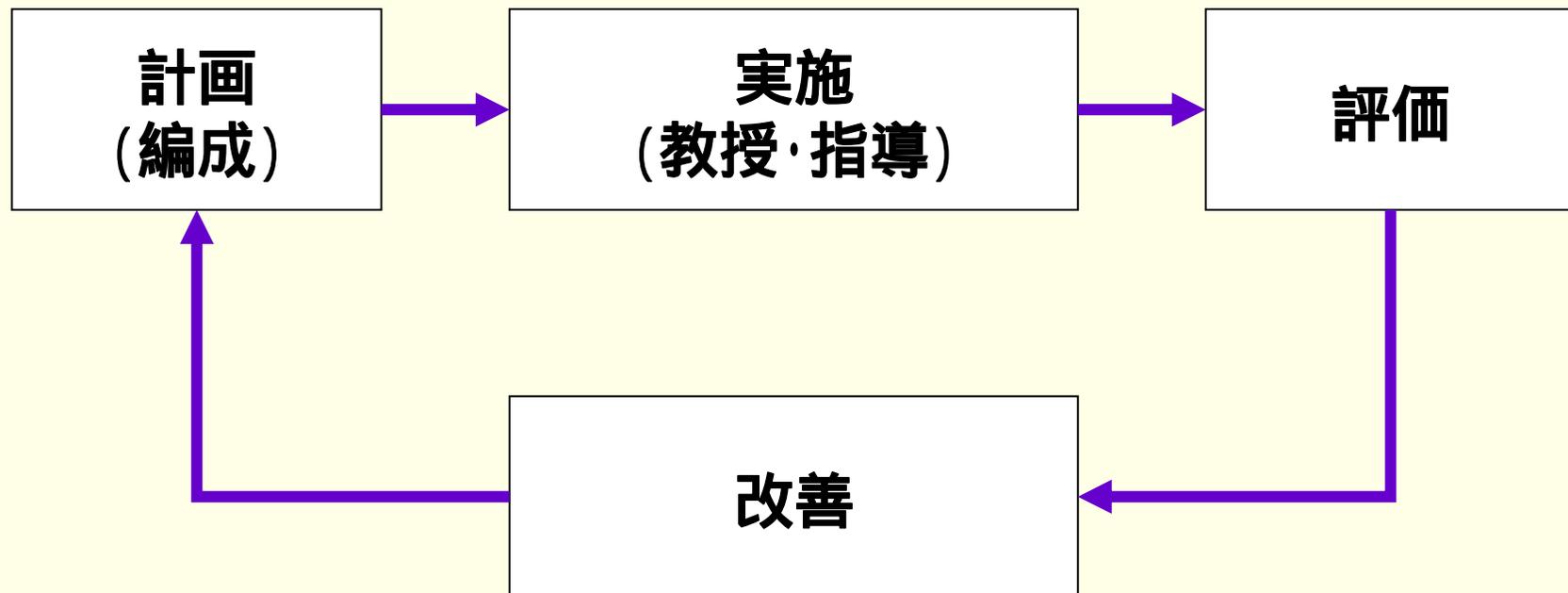
カリキュラム開発

= カリキュラムの評価の改善の継続的活動

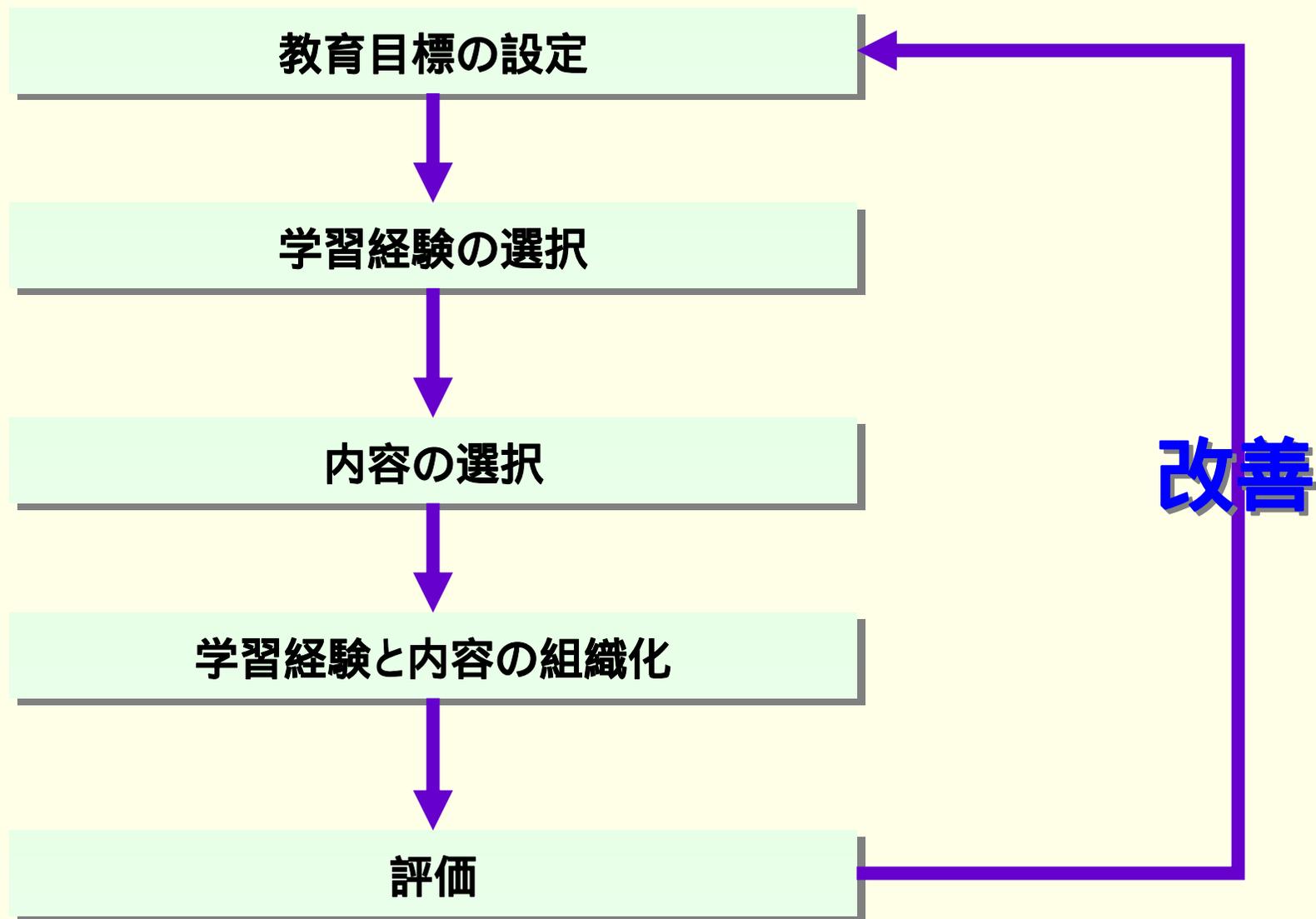
最近の傾向

= SBCD (学校に基礎をおくカリキュラム開発)

カリキュラム開発の過程



カリキュラム開発の過程



カリキュラム開発の過程

	所在地	学校	研究テーマ														
			幼稚園・小学校連携	小学校・中学校連携	中学校・高等学校連携	高等学校・大学連携	英語教育	国語教育	技術・理科教育	情報教育	その他新教科	不登校・生徒指導	職業教育・キャリア教育	特別支援教育	学年を越えた習熟度別指導	地域連携・企業連携	
国立	大阪府	大学附属中学校															
	兵庫県	大学附属小学校															
	奈良県	大学附属中等教育学校															
	山口県	大学附属幼稚園															
	香川県	大学附属小学校															
	宮崎県	大学附属幼稚園他															
公立	東京都	区立小学校他															
	東京都	都立養護学校															
	新潟県	市立養護学校															
	石川県	市立小学校															
	愛知県	町立小学校他															
	三重県	県立高等学校															
	大阪府	村立小学校他															
	兵庫県	町立小学校															
	香川県	町立小学校他															
	高知県	町立幼稚園他															
私立	広島県	高等学校															

学校の教育目標

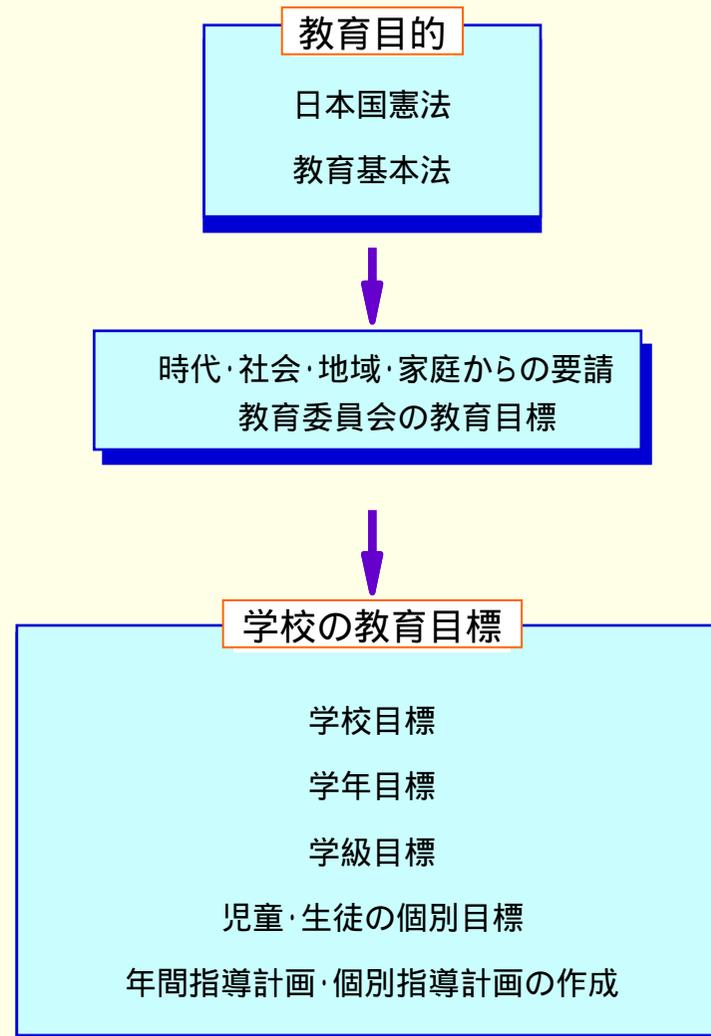
1. 学校目標

2. 学年目標

3. 学級目標

4. 児童・生徒の個別目標

教育目標と教育課程



学校目標

「健康で明るく、知性に富み、人間性豊かな児童の育成に努める」

学年目標

「健康で、よく考え、思いやりのある児童の育成」(2年生)

学級目標

「元気に挨拶、親切の実行」

教育目標と教育課程



(6年生 2004年11月)



(2年生 2003年12月)

平成10年度版学習指導要領に見る教育課程の 基準の方針

豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること。

自ら学び、自ら考える力を育成すること。

ゆとりのある教育活動を展開する中で、基礎・基本の
確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること。

各学校が創意工夫を生かし、特色ある教育、特色ある
学校作りを進めること。

(学習指導要領 = 国が定める教育課程の基準)

現行の学習指導要領の特徴

教育内容の厳選

「総合的な学習の時間」の創設

国際化・情報化への対応

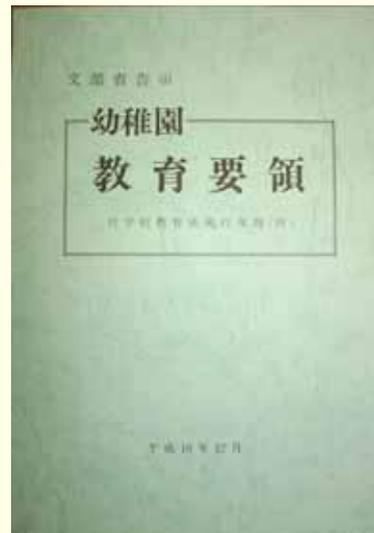
授業時数の削減

教育課程と学習指導要領

区 分		1年	2年	3年	4年	5年	6年
各教科・領域の授業時間	国語	272	280	235	235	180	175
	社会			70	85	90	100
	算数	114	155	150	150	150	150
	理科			70	90	95	95
	生活	102	105				
	音楽	68	70	60	60	50	50
	図工	68	70	60	60	50	50
	家庭					60	55
	体育	90	90	90	90	90	90
	道徳	34	35	35	35	35	35
	特別活動	34	35	35	35	35	35
	総合的な学習の時間			105	105	110	110
総授業時数		782	840	910	945	945	945

「学校教育法施行規則」1998年より

教育課程と学習指導要領

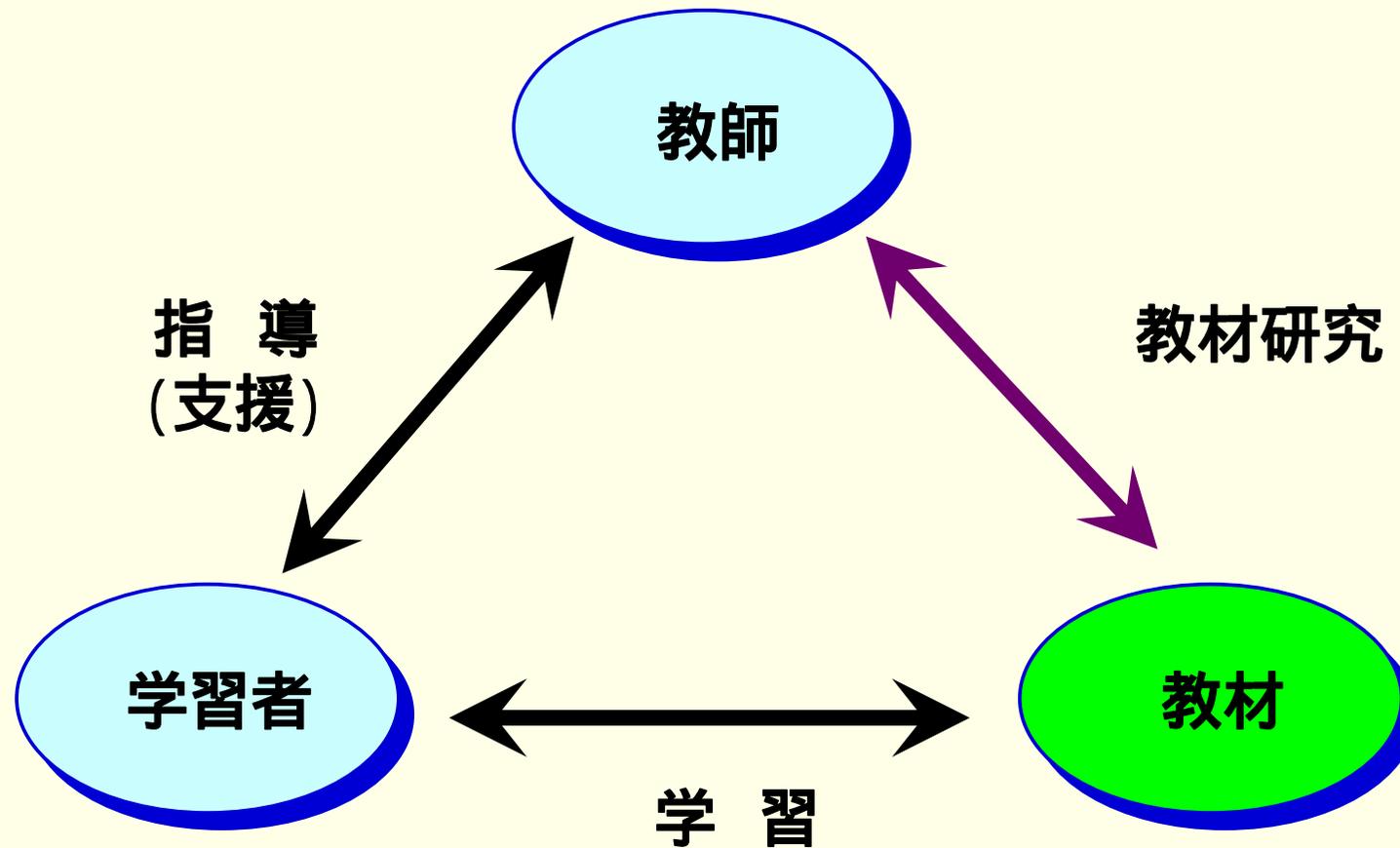


単元 = 教材のまとめ

単元の構成の留意事項

1. 単元の目標の明確化
2. 学習者にあった単元の配列
3. 学校や地域の実態、行事等の考慮

単元構成と教材研究



単元構成と教材研究

配時	観点	指導の目的	指導に当たっての工夫・配慮点
1	数詞・仕組み	トランプゲームができるように、整数と新しい数について調べる	カードを用いた指導を行う。カードは、整数値と少数値を混ぜておく
2、3	構成	カードを調べて、神経衰弱ができるようになる	ゲームを通じた学習(神経衰弱) カードへの工夫 単位少数とそのいくつ分を表示したカード 0.1のいくつ分を表示したカード
4、5	大小	カードを調べて、数値の大小に基づいたゲームができるようになる	ゲームを通じた学習(数値バトル) カードへの工夫 数値をマス図で表示したカード 数値を数直線で表示カード
6	順序	数字のきまりを理解し、七並べができるようになる	ゲームを通じた学習(七並べ) 「大小」で用いたカード2を使用
7	計算(加法)	勝ったカードの合計を出しながら、ゲームができる	ゲームを通じた学習(数値バトル) 「構成」で用いたカードを使用
8	計算(減法)	どっちがどれだけ勝ったか考えながら、ゲームができる	ゲームを通じた学習(数値バトル) 「構成」で用いたカードを使用

単元構成と教材研究

	国際理解	情報	環境	福祉	人々	自然	社会
3年 (105)				触れ合いを求めて(36) ・養護学校の友達 ・お年寄りと仲良し ・運動を楽しくやろう			
	外国ってどんな国(18) ・英語に触れてみよう ・外国の生活を知ろう						
			私たちの宿泊学習(12)				
		パソコンに触れよう(7) ・家庭に手紙を書こう ・パソコンで作品作り					
	キッズシアター(22) 学習発表会を成功させよう(10)						

学習指導案作成の手順

1. 指導目標の明確化
2. 指導内容の重点化
3. 単元の構成
4. 学習指導案の作成

指導計画の例

授業の全体構造

授業の意図と内容

教材研究の成果

事前の計画

授業後のズレの確認

指導計画と学習指導案

科学習指導案

指導者

教室

1. 日時・場所： 月 日 曜日 第 時限目
2. 対象学級： 年 組 （男子 名、女子 名）
3. 単元名：
4. 単元設定の理由：（児童・生徒の実態、教材観、指導観）
5. 単元の目標：
6. 展開の概要（指導計画） 総時数 時間
 - (1) について・・・・ 時間
 - (2) について・・・・ 時間・・・・（本時）
 - (3) について・・・・ 時間
7. 本時の目標（主眼）
8. 本時の指導上の留意点
9. 本時の展開（指導過程）

段階（時間）	学習のねらいと活動内容	指導上の留意点	評価

10. 評価の観点

指導計画と学習指導案

第1学年3組 社会科（歴史的分野）学習指導案

2005年6月3日 第2時限

教育実習生 _____

教科指導教諭 _____ 教諭

1 単元名 文明のおこりと日本列島

2 単元の目標

- 古代の歴史に対する関心を高め、歴史が変化することに気付くとともに、変化の背景を意欲的に追究しようとする。 (関心・意欲・態度)
- 身近な地域にある遺跡や遺物、新たな考古学の成果なども活用し、地域社会についてや、歴史を学ぶ意義を考えることができる。 (社会的な思考・判断)
- 古代文明や国家の成立に関する資料を適切に選択して活用するとともに、追求し考察した過程や結果をまとめたり表したりすることができる。 (資料活用の技能・能力)
- 人類の誕生から文明のおこり、小国家の成立と政治システムの形成に至る変化を理解することができる。 (知識・理解)

3 学習指導計画

第1次 文明のおこり・・・3時間

第2次 大王から天皇へ・・・3時間（本時 2/3）

第3次 国風の政治と文化・・・3時間

4 本時の展開

(1) 目標

- 聖徳太子による政治の内容について理解する。
- 大化の改新の背景と、改新政治の経過を理解する。

(2) 展開

段階	指導内容	学習活動	評価
導入	○本時の学習課題を知る。 聖徳太子の政治から大化の改新への経過を調べよう。 聖徳太子についての伝説を扱うことで、小学校で学習した内容を思い出す手がかりとする。	○聖徳太子にまつわる伝説について質問する。 ・答えをもとに、一度に10人の話を聞くことができたという伝説について、4, 5人のグループを作り、同時に人の話を聞く。 ・3, 4人の話でさえ聞き取ることが難しいことを実感させ、歴史上で偉大な人と扱われてきた太子の政治について関心を持つ。	聖徳太子の伝説について関心を持つとともに、聖徳太子の行った政治についても関心を持つ。(発表・観察)

1

展開	<p>【聖徳太子の政治】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂政という仕事 ・冠位十二階 ・十七条の憲法 ・遣隋使 <p>【大化の改新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聖徳太子の死後の政治状況を理解し、大化の改新の背景を考える。 ・大化の改新の経過、内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂政が、推古天皇（女帝）の時に設置されたという状況から、摂政の役割を想像することができるように発問する。 ・小学校の時に学習した内容がかなりあると思われるので、ワークシートに、政治改革の名称とそれによって目指したことを各自記入し、発表する。 ・意見をもとに、太子が天皇中心の国家作りを目指したことを確認する。 ・蘇我氏と中大兄皇子、中臣鎌足らの考えの違いをまとめ、大化の改新が何を狙って行われたものなのかを考える。 ・改新の詔を読み、大化の改新が、蘇我氏によって破綻しかけた天皇中心の国家の建設を再び目指すために行われたことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎小学校の知識や、資料を選択、活用してプリントにまとめることができる。(発表・ワークシート) ◎天皇中心の国家作りを目指した聖徳太子の政治を理解することができる。(発表・ワークシート)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・聖徳太子が行った天皇中心の国家形成を目指した政治改革が、大化の改新を経て受け継がれていったことを理解する。 ・次時への予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書をもとに今日の授業の流れを確認する。 ・次回の授業（白村江の戦い、壬申の乱、律令国家の形成）へのつながりを予告として伝える。 	

2

児童・生徒対象の評価

指導要録

= 学校に備えておかなければならない表簿

通知表 = 学校と家庭の連絡簿

学習評価の最近の動向

= 目標に準拠した評価(絶対評価)の重視

目標に準拠した評価(絶対評価)の留意事項

学習者一人ひとりの進歩の状況、教科目標の
実現状況の把握

学習指導の改善に生かす(指導と評価の一体化)

習熟の程度に応じた指導等、個に応じた指導の充実

評価(児童・生徒対象)

No.		なまえ						
学 習 の 記 録								
	1 学 期	2 学 期	3 学 期					
生 活								
国 語								
算 数								
音 楽								
図画工作								
体 育								
特別活動								
業 績・訓 練								
からだのきろく								
しんちょう	たいじゅう	しりよく		みぎ		ひだり		視力は該当欄に○をつけています。 ()は矯正視力です。
. cm	. kg	1.0以上	()	()	0.7未満-0.3以上	()	()	
		1.0未満-0.7以上	()	()	0.3未満	()	()	

No.		なまえ		(学期ごとにあてはまる欄に「○」をつけています。)											
生 活 の 記 録				1 学 期			2 学 期			3 学 期					
内 容	い る 手 助 け が	で き る 言 わ れ て	で き る 言 わ れ て												
													い る 手 助 け が	で き る 言 わ れ て	い る 手 助 け が
基 本 的 生 活 習 慣	1	すききらいをししないで食べる。													
	2	ひとりでトイレに行く。													
	3	ぬいだり着たりする。													
	4	手足がよごれたらあらう、ぬれたらふく。													
	5	身のまわりの整理整頓をする。													
健 康 安 全	1	けがや病気のときは知らせる。													
	2	安全に気をつけてあそぶ。													
	3	交通のきまりを守る。													
遊 び	1	ごっこあそびやかんたんルールのあるあそびをする。													
	2	友だちといっしょになかよくあそぶ。													
仕 事・ 手 伝 い	1	そうじをする。													
	2	当番の仕事やかんたん手伝いをする。													
き ま り	1	チャイムなどのあいずにしたがう。													
	2	だまってはかの教室へ入ったり、外へ出たりしない。													
	3	学校のもの自分のもを区別して使う。													
交 際	1	身近な人にあいさつをする。													
	2	自分の名前、親の名前を言う。													
	3	見たり聞いたりした事について自分の気持ちを伝える。													
1 学 期				2 学 期				3 学 期							
交 流															
連 絡															

評価(児童・生徒対象)



授業評価

= 授業の改善のための評価

方法

1. 授業に対する学習者の評価(感想文等)
2. 授業分析による教育工学的な方法
3. 教師たちによる授業研究会

授業評価の観点例

学習者の発達の適時性

個人差へ応じる幅のある内容

学習者の満足感と、とりくみ

深められる場

教材・教具の有効性

カリキュラム評価

= カリキュラムの改善のための評価

カリキュラム評価の観点

学習者の学習評価

学校のカリキュラム開発組織の評価

地域とカリキュラムのかかわりの評価

学校全体のカリキュラムの成果、プロセスの評価

学校の特性

授業評価・カリキュラム評価



学習指導の一般的形態

一斉教授

グループ学習

個別学習

最近の動向

個に応じた指導

学習指導の形態

一斉教授

学級全体を対象

同じ学習内容を一斉に、同時間に学習

教師の指導性が大切

小集団(グループ)学習

一つの学習をいくつかのグループに分けて学習

グループの協力・共同の学習

個別学習

一人ひとりの児童生徒における学習

学習指導の形態

最近の動向 - 個に応じた指導のために -

少人数指導

習熟度別指導

T・T(チーム・ティーチング)

学習指導の形態

一斉教授



個別学習



グループ学習



チームティーチング



日本語の個別学習

小学校における各教科

国語

社会： (3～6年生)

算数

理科： (3～6年生)

生活： (1～2年生)

音楽

図画工作

家庭： (5～6年生)

体育

小学校における各教科

教科	目 標
国語	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる
社会	社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う
算数	数量や図形についての算数的活動を通して、基礎的な知識と技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考える能力を育てるとともに、活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活に生かそうとする態度を育てる
理科	自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を図り、科学的な見方や考え方を養う
生活	具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う
音楽	表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う
図画工作	表現及び鑑賞の活動を通して、作りだす喜びを味わうようにするとともに造形的な創造活動の基礎的な能力を育て、豊かな情操を養う
家庭	衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活への関心を高めるとともに日常生活に必要な基礎的な知識と技能を身に付け、家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てる
体育	心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる

小学校における各教科



小学校における各教科



小学校における各教科



小学校における各教科



小学校における各教科



調べる



まとめる



発表する



話し合う



観察する



見る

道徳の目標

1. 道徳教育の目標
2. 「道徳」の時間の目標

道徳の内容

1. 主として、自分自身に関すること
2. 主として、他の人とのかかわりに関すること
3. 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること
4. 主として集団や社会とのかかわりに関すること

道徳

道徳の内容 - 4. 主として集団や社会とのかかわりに関すること

第1学年及び第2学年

(1) みんなが使う物を大切にし、約束やきまりを守る。

(2) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。

(3) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくする。

(4) 郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。



第3学年及び第4学年

(1) 約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。

(2) 働くことの大切さを知り、進んで働く。

(3) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合っ
て楽しい家庭をつくる。

(4) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合っ
て楽しい学級をつくる。

(5) 郷土の文化と伝統を大切にし、郷土を愛する心をもつ。

(6) 我が国の文化と伝統に親しみ、国を愛する心をもつとともに、外国の人々や文化に関心をもつ。

道徳

道徳の内容 - 4. 主として集団や社会とのかかわりに関すること

第5学年及び第6学年

- 
- (1) 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。
 - (2) 公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。
 - (3) だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める。
 - (4) 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。
 - (5) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。
 - (6) 先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。
 - (7) 郷土や我が国の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。
 - (8) 外国の人々や文化を大切にする心もち、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める。

道徳



(4年生、2005年1月)

道徳



(1年生、2005年3月)

特別活動 1 (学級活動・ホームルーム活動)

特別活動の目標

特別活動の内容(小学校)

- A. 学級活動
- B. 児童会活動
- C. クラブ活動
- D. 学校行事
 - (1) 儀式的行事
 - (2) 学芸的行事
 - (3) 健康安全・体育的行事
 - (4) 遠足・集団宿泊的行事
 - (5) 勤労生産・奉仕的行事

特別活動 1 (学級活動・ホームルーム活動)

A. 学級活動

- (1) 学級や学校の生活の充実と向上に関する事
- (2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関する事

特別活動 1 (学級活動・ホームルーム活動)



水	火	月	金	木	土
学級会をひらく	話し合うことの 意見を考え、 まとめておく	話題・話し合う ことのれんらく	役割り分たん	議題あつめ	学級会の計画のしかた
五時間目	一時間目 休み時間	備りの会 (計画 委員)	20分休み (計画 委員)	休み時間 いつでも (全員)	



特別活動 1 (学級活動・ホームルーム活動)



特別活動 2 (児童会活動・生徒会活動)

児童会活動

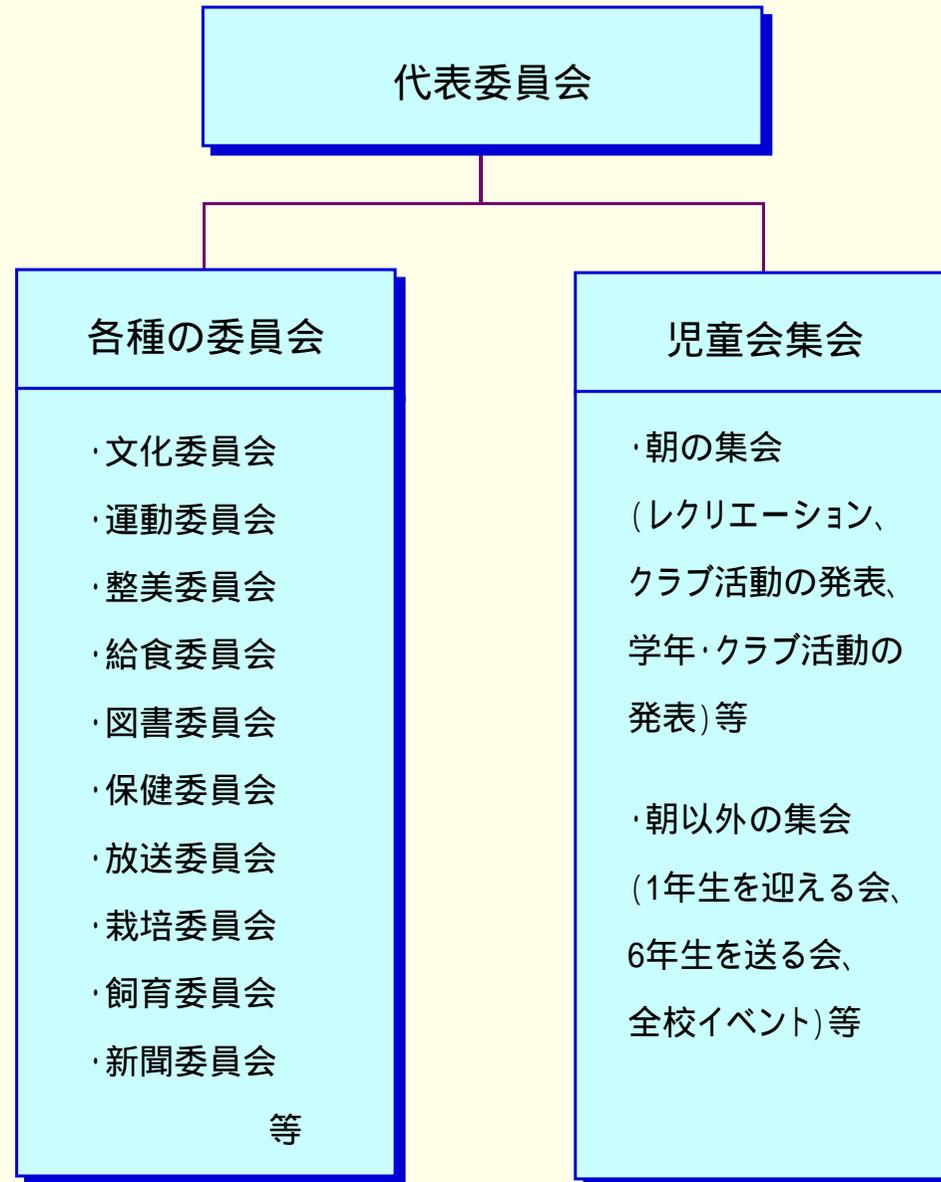
児童会において学校生活の充実と向上のために諸課題を話し合い、協力してその解決を計る活動を行うこと。

児童会の活動内容

- 代表委員会活動
- 委員会活動
- 児童会集会活動

特別活動 2 (児童会活動・生徒会活動)

児童会の組織



特別活動 2 (児童会活動・生徒会活動)

代表委員会



(2004年11月)
4年生以上の各委員会の委員長が参加する

特別活動 2 (児童会活動・生徒会活動)



特別活動 2 (児童会活動・生徒会活動)



ようこそ4年生
(該当学年が日頃の
学習成果を発表する)

(2004年11月)



特別活動 3 (クラブ活動)

クラブ活動

= 授業時間内の必修クラブ

学年・学級の所属を離れた活動
共通の興味・関心を追求する活動

クラブ活動の特徴

児童の思いを重視する
児童の希望を生かして活動を設置する
高学年をリーダーとして、4～6年生が
一緒に活動する

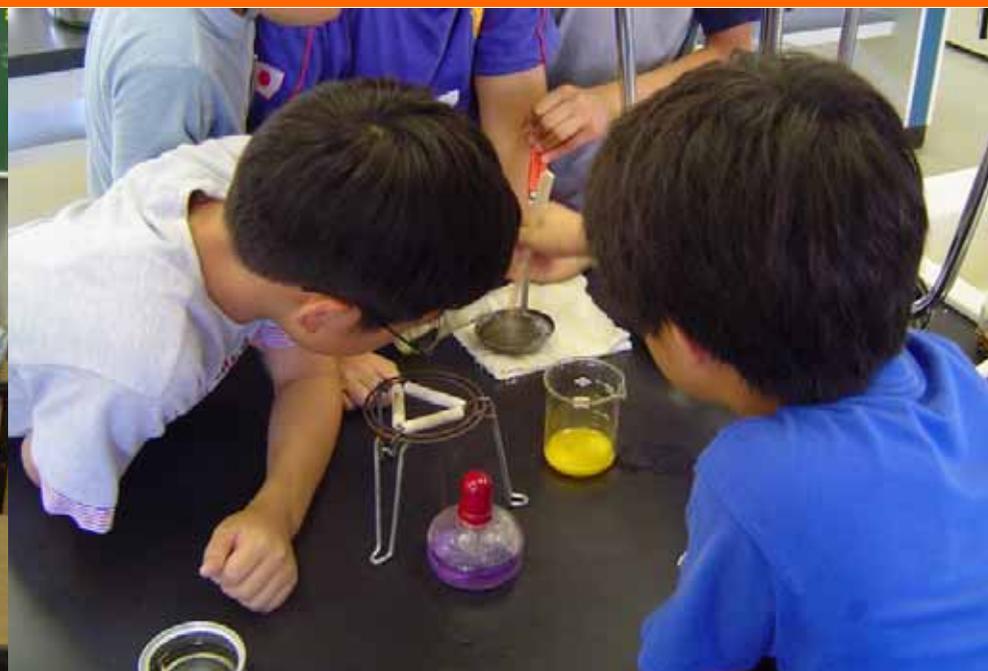
特別活動 3 (クラブ活動)

	具体例
運動系	バスケットボール、バドミントン、卓球、バトン、ドッジボール、サッカー、ソフトボール、一輪車、野球、ダンス、剣道、水泳、陸上
音楽系	器楽、合唱、和太鼓、マーチングバンド
美術系	工作、イラスト(漫画)、会画、焼き物
演劇系	演劇
科学系	化学、自然、動物
家庭系	手芸、編み物、料理(調理)、茶道
レクリエーション系	将棋、囲碁、ゲーム、手品、野外活動、鉄道、写真
福祉系	手話、点字、ボランティア
情報系	パソコン、ビデオ、インターネット
国際系	国際交流、英語

特別活動 3 (クラブ活動)



特別活動 3 (クラブ活動)



特別活動 3 (クラブ活動)



特別活動 3 (クラブ活動)



総合的な学習の時間

特徴 : 「各学校の創意工夫を生かし
教科の枠を越えた学習ができる時間」

ねらい

自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、
よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。等

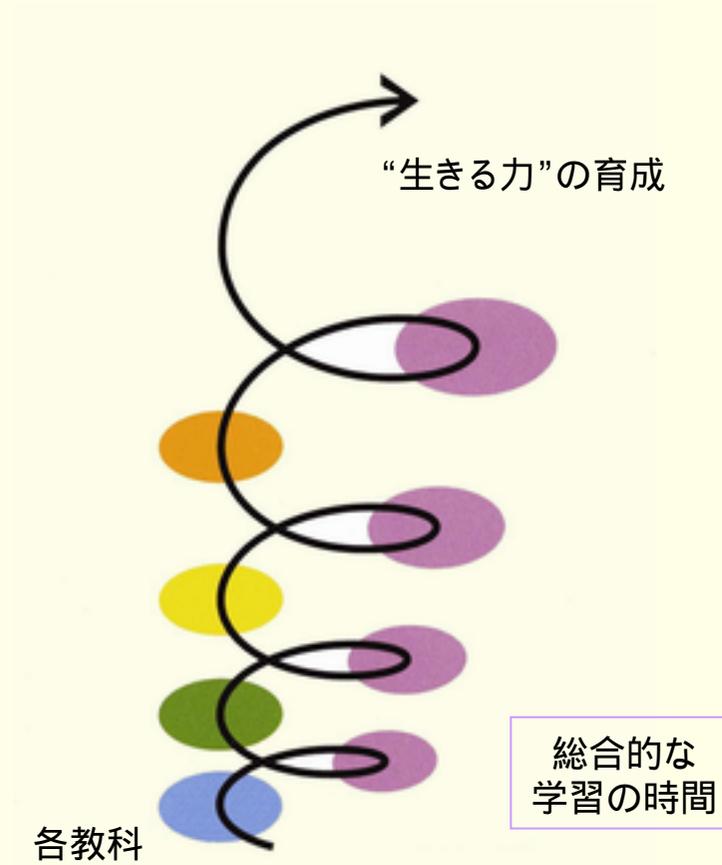
学習活動

国際理解、情報、環境、福祉・健康などの
横断的・総合的な課題

生徒の興味・関心に基づく課題

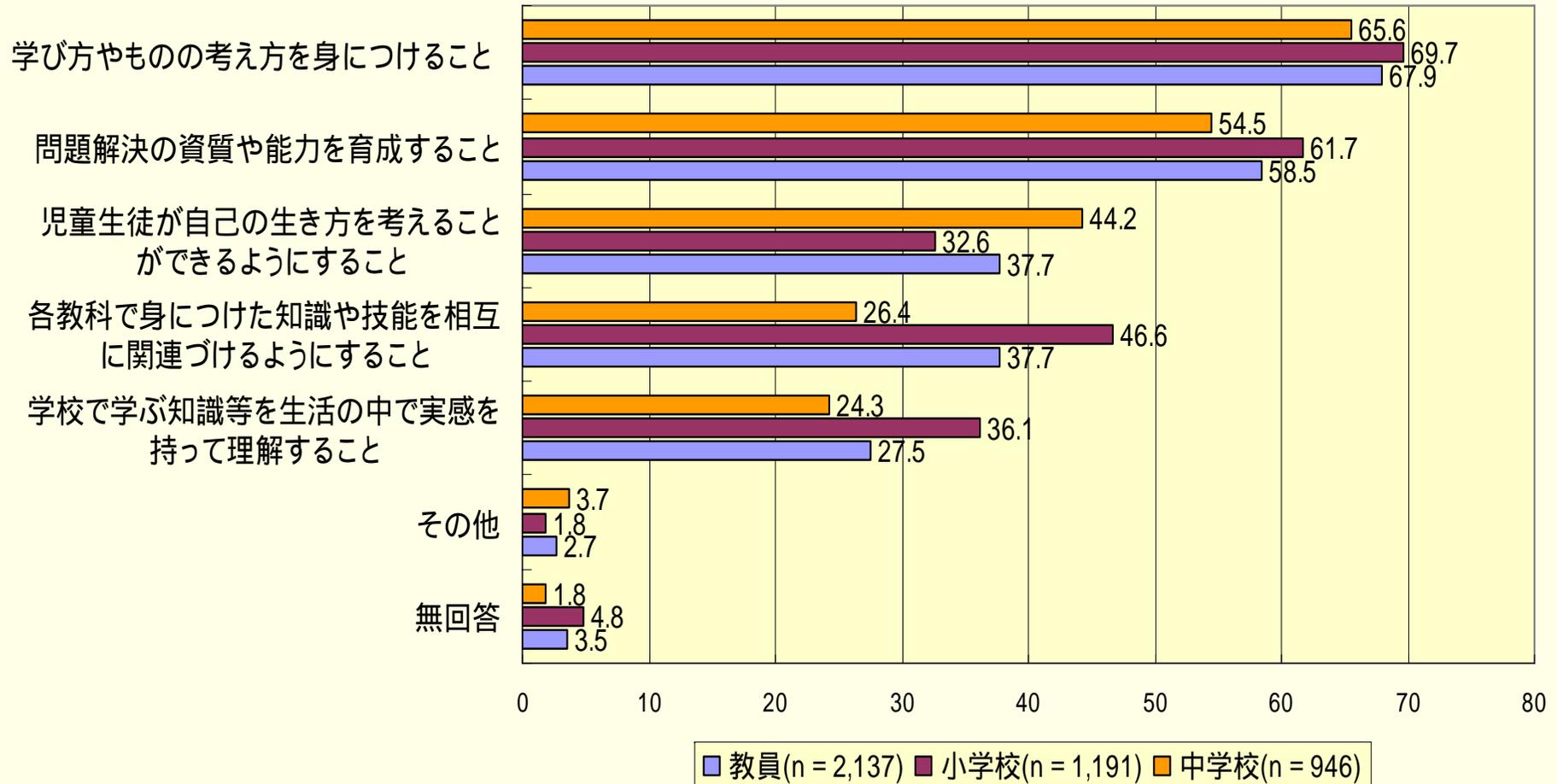
地域や学校の特色に応じた課題

総合的な学習の時間



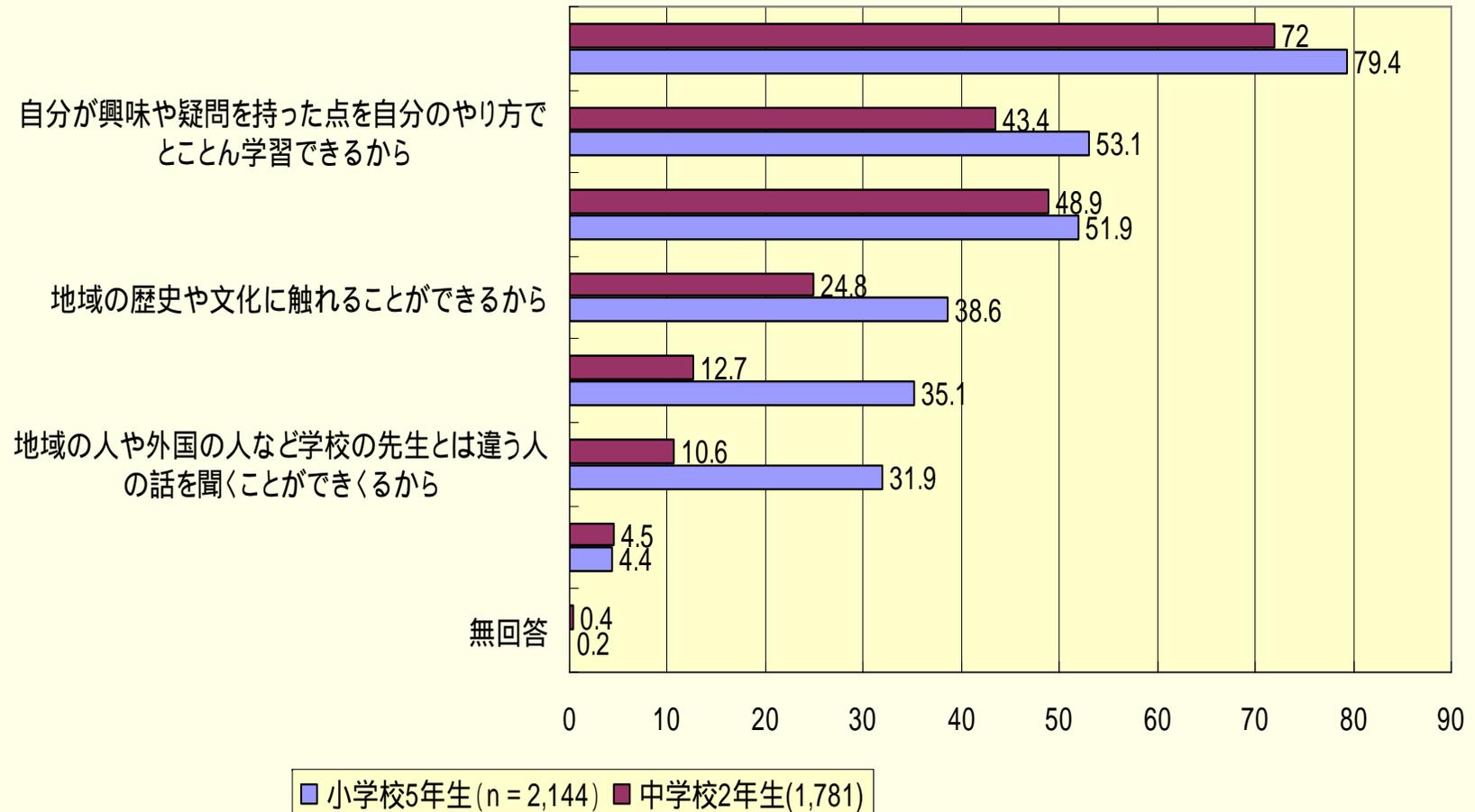
総合的な学習の時間

「総合的な学習の時間」のねらい(教員)



総合的な学習の時間

「総合的な学習の時間」が好きな理由(児童生徒)



総合的な学習の時間



部活動

部活動 = 課外の選択クラブ活動

部活動の意義 = 心身の鍛練と教養を深める

個性の伸長

社会性や集団性の育成

部活動

体育系

バレーボール部・バスケットボール部・
サッカー部・テニス部・野球部・水泳部・
山岳部・陸上部・バトン部・弓道部・柔道部

文化系

吹奏楽部・美術部・書道部・演劇部・化学部
茶道部・華道部・文芸部・ESS・パソコン部

部活動



部活動



部活動



教材の構成 (1)

1部

日本の学校制度の概要

スライド数(41)

- 1 学校教育体系
- 2 就学前教育制度
- 3 小学校教育制度
- 4 中学校教育制度
- 5 中等教育学校制度
- 6 高等学校教育制度
- 7 高等専門学校制度
- 8 大学教育制度
- 9 障害児教育学校制度
- 10 専修学校・各種学校
- 11 日本の近代化と公教育制度

教育行財政

スライド数(87)

- 1 教育法規の体系
- 2 教育基本法
- 3 教育行政をめぐる改革動向(1)
- 4 教育行政をめぐる改革動向(2)
- 5 教育委員会
- 6 文部科学省
- 7 文部科学省の指導行政
- 8 教育財政と負担構造
- 9 法律に定める学校
- 10 学校の設置・管理
- 11 学校施設・設備の基準と学級規模等の基準
- 12 就学と不登校
- 13 学校の自己評価・第三者評価
- 14 教育情報の公開・開示
- 15 学校評議員制度
- 16 教科書・補助教材
- 17 児童生徒の懲戒
- 18 特別支援教育制度
- 19 認定就学者制度
- 20 へき地教育
- 21 中学校夜間学級(夜間中学)
- 22 中学校卒業程度認定試験

日本の社会教育の概要

スライド数(43)

- 1 社会教育施設1(公民館)
- 2 社会教育施設2(図書館)
- 3 社会教育施設3(博物館)
- 4 社会教育主事
- 5 青年の家・少年自然の家
- 6 社会教育関係団体
- 7 社会通信教育
- 8 社会教育生涯スポーツ
- 9 カルチャーセンター

教材の構成 (2)

2部

教育課程編成と実施

スライド数(74)

- 1 教育課程の全体構造
- 2 カリキュラム開発の過程
- 3 教育目標と教育課程
- 4 教育課程と学習指導要領
- 5 単元構成と教材研究
- 6 指導計画と学習指導案
- 7 評価(児童・生徒対象)
- 8 授業評価・カリキュラム評価
- 9 学習指導の形態
- 10 小学校における各教科
- 11 道徳
- 12 特別活動1 (学級活動・ホームルーム活動)
- 13 特別活動2 (児童会活動・生徒会活動)
- 14 特別活動3 (クラブ活動)
- 15 総合的な学習の時間
- 16 部活動

学級経営・生徒指導

スライド数(43)

- 1 学級経営計画
- 2 学級目標
- 3 学級活動・係活動・班活動・日直
- 4 学級通信
- 5 異年齢集団活動
- 6 不登校
- 7 不登校への対応策
- 8 家庭訪問
- 9 スクールカウンセラーと
心の教室相談員
- 10 生徒指導会議
- 11 学級費

学校運営

スライド数(34)

- 1 学校経営
- 2 学校経営計画
- 3 学校教育目標
- 4 カリキュラム経営
- 5 職員会議
- 6 校長の職務・力量
- 7 民間人校長
- 8 校務分掌
- 9 主任制
- 10 学校評価
- 11 教員評価
- 12 学校の危機管理
- 13 学校選択制

教材の構成 (3)

2部

地域・保護者との連携

スライド数(75)

- 1 PTA活動
- 2 家庭訪問
- 3 授業参観
- 4 保護者懇談会
- 5 通知表
- 6 連絡帳
- 7 学校便り、学年便り、学級便り
- 8 学校のホームページ
- 9 地域の人材活用
- 10 職場体験
- 11 地域学習
- 12 学校評議員
- 13 学校開放
- 14 複合施設
- 15 子ども会
- 16 地域教育連絡協議会
- 17 子ども100番の家
- 18 保護者支出の学校教育費

教員資格・養成・任用・研修

スライド数(40)

- 1 教員の資格
- 2 教員養成
- 3 教員資格認定試験
- 4 教員の資格
- 5 教員研修
- 6 校内研修
- 7 スクールリーダーの研修
- 8 教員給与
- 9 教員処分

教材の構成 (4)

3 部

学校の生活と文化

学校の行事 スライド数(15)	教師の一日 スライド数(13)	子ども的一天 スライド数(15)	学校の生活 スライド数(29)	
1 学校の行事	16 教師の一日	29 子ども的一天	44 学校の生活	63 保健教育
2 入学式	17 朝の会	30 集団登校	45 あいさつ	64 好きなもの・嫌いなもの
3 始業式	18 授業の準備	31 朝の会	46 集団の規律	65 制服
4 全校朝礼	19 教える	32 学級の係	47 名前・名札	66 校章・校歌
5 遠足	20 教えるための技術	33 授業の前	48 準備と片づけ	67 優勝旗・賞状
6 運動会 1	21 中休み・昼休み	34 授業中	49 給食袋	68 国旗・時計
7 運動会 2	22 給食の時間 1	35 中休み・昼休み 1	50 記録する	69 卒業記念
8 持久走	23 給食の時間 2	36 中休み・昼休み 2	51 くつと上ばき	70 AET
9 宿泊学習	24 そうじの時間	37 中休み・昼休み 3	52 給食の時間	71 掲示物 4
10 修学旅行	25 帰りの会	38 遊ぶ	53 給食の協働	72 教師の学習
11 健康診断	26 職員室	39 給食の前後	54 給食の献立	
12 避難訓練	27 教師のつくえ	40 職員室	55 そうじの協働	
13 音楽会	28 生活指導	41 帰りの会	56 そうじの場所	
14 終業式		42 下校	57 飼育・栽培	
15 卒業式		43 放課後	58 掲示物 1	
			59 掲示物 2	
			60 掲示物 3	
			61 保健室	
			62 男女共学	

教材について

教材開発の背景

開発途上国の初等中等教育整備を進めるためには、教育経営・教育制度・社会教育・教員研修等の整備が条件となる。日本は、これまで多くの教育経験を蓄積してきているが、その中には開発途上国にとって有効の情報、あるいは、先進諸国の教育協力と比較して優位性をもつ情報が含まれている。実際、開発途上国では、欧米モデルではない、日本の教育モデルへの関心は非常に高かったが、これまでそうしたニーズに適切に応えてきたとはいえない。そのためには、日本の教育経験に関する情報を整備・再構成して、開発途上国と共有化できるように整備する必要があった。

教材開発事業の目標と予算

教育協力事業では、相手国の教育事情の特徴及び途上国の教育関係者がもつニーズを十分に理解したうえで、日本の経験や情報の、何を、どのように、伝えるかの吟味が必要である。また、教育協力活動の形態は、日本での受け入れ研修、現地での派遣研修、現地教育関係者による研修など様々である。本事業は、そうした吟味を踏まえた、あらゆる教育協力現場で有効な教材を編集するだけでなく、教材開発と教授方法に関する情報データベースの構築を図ろうとするものである。この主旨に対し文部科学省拠点システム構築委託事業「日本の教育経験における情報整備事業 - 教育経営・教員研修分野を中心として - 」として予算が確保された。

教材の種類・形態・所在・言語

	CRICEDのHP	JICA関係機関	国際交流基金	大学留学生センター	言語
教材	PDF fail	スライド集CD	スライド集CD	スライド集CD	日本語・英語
教材解説書	PDF fail	解説書	解説書	解説書	日本語・英語
教材索引	PDF fail	-	-	-	日本語・英語
研修モジュール	PDF fail	-	-	-	日本語・英語

教材使用についてのお願い

この教材の著作権はCRICEDが有し、掲載された写真・図・表・解説を無断で編集したり、転載することを禁止します。また開発途上国に対する国際教育協力を目的とした研修以外でこの教材を使用する場合には、あらかじめCRICEDに使用目的と使用方法を連絡し、承諾を得るようにしてください。

研修モジュールの作成方法

この教材は9領域113項目に関する概説・図表・写真を掲載した509スライドで構成されています。仮に、スライド1枚を1分間で説明したとして、教材全体の説明には、509分＝8時間以上必要になります。

実際には、研修の目的・対象に応じて、必要なスライドを抜き出して、プレゼンテーションを行うことが現実的です。こうした研修の使用目的・対象などを特定したスライドのセットを、ここでは研修モジュールとよぶことにします。

CRICEDでは、さまざまな研修モジュールをHP上で公開しているので、これを参考にして、各機関のスライド集CDやHP上のPDFファイルから、自分用の研修モジュールを作成してください。

スライド集CDから研修モジュールを作成する方法

- i. スライド集CDのファイルを自分のパソコンに移す。
- ii. プレゼンテーション用ソフトの新規画面を開く。
- iii. 挿入 ファイルからスライド **元の書式を保存する** スライドを選択する
(“**元の書式を保存する**” を選択しないと、背景や文字・線の配色が変化してしまうので注意する)

HPのPDFファイルから研修モジュールを作成する場合には、Acrobatが必要です。

執筆・研究協力者一覧

教材執筆者

日本の学校制度の概要	堀内 孜
教育行財政	窪田 眞二
日本の社会教育の概要	手打 明敏
教育課程の編成と実施	木村(飯田) 範子
学級経営・生徒指導	浜田 博文
学校経営	小島 弘道
地域・保護者との連携	水本 徳明
教員資格・養成・任用・研修	小島 弘道
学校の生活と文化	村田 翼夫 / 鎌田 亮一

研究協力者

佐藤眞理子	筑波大学・助教授
嶺井明子	筑波大学・助教授
小島弘道	筑波大学・教授
窪田眞二	筑波大学・教授
手打明敏	筑波大学・教授
水本徳明	筑波大学・助教授
浜田博文	筑波大学・助教授
堀内 孜	京都教育大学・教授
村田翼夫	大阪成蹊大学・教授
大塚 豊	広島大学・教授
西野節男	名古屋大学・教授
斉藤泰雄	国立教育政策研究所・統括研究官
渋谷英章	東京学芸大学・教授
橋本美保	東京学芸大学・助教授
木村(飯田) 範子	筑波大学・講師
村田敏雄	国際協力総合研修所国際協力専門員(教育)
鎌田亮一	筑波大学大学院人間総合科学研究科
柳林信彦	筑波大学大学院人間総合科学研究科

写真取材協力(順不同)

茨城県	自然博物館
茨城県	県教育委員会義務教育課
茨城県	洞峰公園
茨城県	土浦養護学校
茨城県	県教育研修センター
茨城県	県南生涯学習センター
茨城県	結城郡八千代町地域女性団体連絡会
茨城県	茨城県庁
茨城県	財団法人いばらき文化振興財団
茨城県	アクアワールド茨城県大洗水族館
北茨城市	中郷第一小学校
志木市立	志木小学校
品川区立	戸越台中学校
高千穂町立	岩戸小学校
つくば市	竹園東中学校PTA
つくば市	竹園西小学校PTA
つくば市	教育委員会
つくば市	中央図書館
つくば市	春日公民館
つくば市	豊里公民館
つくば市	小野川公民館
つくば市	西公民館

つくば市	つくば少年柔道大会
つくば市	少年サッカー大会
つくば市	筑波学園郵便局
つくば市	筑波大学総務・企画部広報課
つくば市	つくば中央警察署
つくば市	ピーターパン(パン店)
つくば市	吾妻保育所
つくば市	NPO法人アサザ基金
つくば市	友朋堂書店
つくば市	おはなしの泉
つくば市	学校法人筑波研究学園専門学校
つくば市	市進学院つくば教室
つくば市立	竹園西小学校
つくば市立	竹園東小学校
つくば市立	筑波第一小学校
つくば市立	筑波小学校
つくば市立	田井小学校
つくば市立	三笠小学校
つくば市立	手代木南小学校
つくば市立	上郷小学校
つくば市立	菅間小学校
つくば市立	吾妻小学校

つくば市立	吾妻中学校
つくば市立	竹園東中学校
つくば市立	竹園西幼稚園
土浦市	ボーイスカウト土浦第3団
土浦市	土浦ドッジボール協会
土浦市	大岩田地区子ども会
土浦市立	第二高等学校
東京都	筑波大学附属小学校
東京都	NPO法人東京シューレ
東京都立	都立航空工業高等専門学校
藤沢市	紀伊国屋旅館(藤沢市)
水戸市	教育委員会
水戸市	教育委員会義務教育課
水戸市	総合教育研修センター
水戸市	読売・日本テレビ文化センター水戸
水戸市立	浜田小学校
宮崎県立	五ヶ瀬中等教育学校
宮崎市立	住吉小学校
独立行政法人	教員研修センター

写真提供

日本青年団協議会
 学校法人日本放送協会学園高等科
 杉並区立社会教育センター
 水戸市立浜田小学校
 五ヶ瀬町立上組小学校
 浜田博文(筑波大学) 窪田眞二(筑波大学) 手打明敏(筑波大学)

(編集委員)

教材監修:佐藤真理子

教材

製本編集:鎌田亮一 / 柳林信彦

ページレイアウト(山尾祐喜子)

スライド

スライド編集:鎌田亮一 / 柳林信彦

スライドレイアウト(鎌田亮一)

図・表レイアウト(柳林信彦)

文献資料調査(柳林信彦)

写真撮影・取材(鎌田亮一 / 平田敦義)

日本の教育制度と教育実践
- 研修のためのヴィジュアル教材 -

(平成16年度文部科学省拠点システム構築委託事業)
日本の教育経験における情報整備事業
- 教育経営・教員研修分野を中心として -

2006年2月

筑波大学教育開発国際協力研究センター
(CRICED)

〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1
Tel: 029-853-7287 Fax: 029-853-7288

CRICED HP: URL. <http://www.criced.tsukuba.ac.jp/keiei/>
教材のダウンロード: <http://e-archives.criced.tsukuba.ac.jp/>

教材に関する質問・意見・感想はこちらへどうぞ
e-mail: criced-adm@human.tsukuba.ac.jp

- 研修のためのヴィジュアル教材 -